

---

---

# ろくおん通信

11月号

第3号 1986.11.10発行

盲人情報文化センター  
録音製作係

---

---

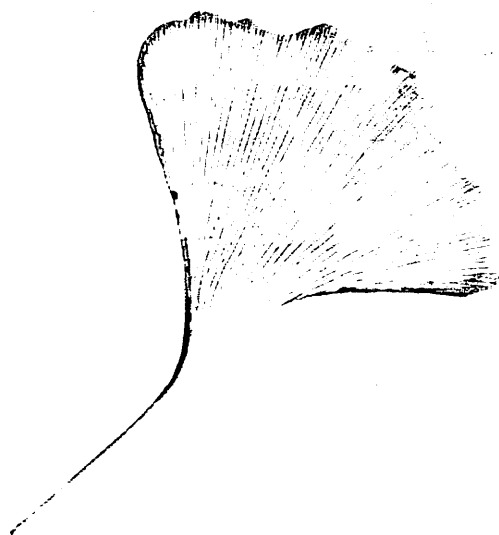
## ご協力くださいませんか

谷垣 正子

日本は「ニホン」か「ニッポン」か。NHK、日本放送協会（これはニッポンです）では国号として使うときは「ニッポン」としているようですが、日本画、日本海、日本髪、日本酒は一般的には「ニホン」と読みます。また、両方読む場合もあります。全日本、日本刀、日本晴れなどです。

日本アルプス、日本大学、日本文芸家協会、日本赤十字社、日本たばこ産業、日本電気、日本点字図書館、そして当館の正式名称、日本ライトハウス盲人情報文化センター…。日本がつくものはいくらでもあります。一般語の日本は、相応しい読み、あるいはどちらかに読むと決めてしまえばいいのですが、上記のような固有名詞が厄介です。調査が大変です。原本に日本がでてくればボランティアの方々それぞれがご苦勞なさっています。一人ひとり

の苦勞をそのままにしてしまうのではなく、全体の財産にしたいと思います。そこで日本のつく会社名、団体名などを収集・調査し、コンピュータ入力後、冊子として発行したいと考えています。しかし現在の仕事量を考えますと、実現不可能です。お手伝いくださる方を求めています。是非ご協力ください。



## 医学用語について（その1）

重村 敏夫

ろくおん通信10月号で、久保洋子さんが医学書の校正の際「腔」の読み方に大変苦勞されたと書いておられますが、小生にも同じ様な苦い経験が数多くありますし、現在もその悩みは続いております。また久保さんは専門書は専門の辞典でと、強く感じたことを述べておられますが、これは他の専門書と同様に、或はそれ以上に医学書の場合は必要であるかも知れません。

さて今回編集子のご要望に応じて、医学用語の読み方についてその要点をできるだけ系統的に、簡潔にまとめてみることにしますが、何分経験の浅い素人の書くものですから、どれだけお役に立つことができるか、甚だ心もとなく感じております。

（A）医学知識の基本はなんと云っても先ず解剖学から始まりますが、日本解剖学会編「解剖学用語」（丸善出版）の凡例の中に「漢字の音、訓とフリガナについて」と題する項目があります。学会の考え方の基本になるものですから、少し長くなりますが全文を引用しておきます。

漢字の音、訓とフリガナについて

次の基本方針をとった。

（1）音のうち、医学ないし解剖学で特殊な音または慣用音を採用しているもの、また学生の読み誤りやすいものにはフリガナをつける。窩（カ）、腔（クウ）、楔（ケツ）、臍（サイ）、茸（ジ）、頭蓋（トウガイ）、洞（ドウ）、会陰（エイン）、距（キョ）、櫛（シツ）、須毛（シュモウ）、鞞（ジン）、撓（トウ）、胼（ヒ）、眉間（ミケン）など。

（2）音を決定するのに問題のある場合にはフリガナを付けず、読む人にまかせる。人中（ジンチュウ、ニンチュウ）、弛緩（シカン、チカン）、娘（ジョウ、ロウまたはムスメ）、皺（スウ、シュウ）など。

（3）訓で読むことをとくにすすめたい場合にはフリガナをつける。鎌（カマ）、蔓（ツル）、籠（カゴ）、莢（サヤ）など。

（4）従来一部に訓のフリガナが付いていた字でも、音で読むのが一般的な場合のある字（膝—膝状体、渦—心渦など）、また訓で読める場合があっても従来フリガナのついていなかった字は、すべて読む人にまかせる。

上記の文面だけではその意図するところが判り難い点もありますので、これを少し敷衍しながら小生の考え方を述べてみましょう。

(B) 杉田玄白らの「解体新書」以来、約200年以上の長い医学の歴史の中で、医学用語の採定には幾多の変遷があったようですが、私達専門外漢が医学書に接して特に強く感じることは、医学用語の100パーセント近くが音読みになっていることです。病名、部位名、技術用語にしてもほとんどが音読みです。若干の訓読みにお目にかかることもあります。その例を二、三挙げてみましょう。

汗疹(カンシン=あせも)、麻疹(マシン=はしか)、嘔気(アイキ=あくび)、吃逆(キツギャク=しゃっくり)、嘔声(サセイ=しゃがれごえ)、胴胝(ベンチ=たこ)などがあります。

しかしながら、最近の傾向として訓読みが少しずつ増えていることも事実で、近刊の学術書の本文のルビや巻末の索引で、それを確かめることが出来ます。その例を次に挙げてみます。

杯細胞(ハイ→さかずき)

星細胞(セイ→ほし)

楔状(セツ→くさび)

楯状(セツ→くし)

匙状(ヒ→さじ)

蜘蛛膜(チモウ→くも)

肩関節(ケン→かた)

膝関節(シツ→ひざ)

指関節(シ→ゆび)

足関節(ソク→あし)

片麻痺(ヘン→かた)

水治療(スイ→みず)

指鼻試験(シビ→ゆび、はな)

踵膝試験(シヨウシツ→かかと、ひざ)

肩手症候群(ケンシュ→かた、て)

以上の例は専門書から取り上げたものですが、一般教養書や啓蒙書であれば訓読みの範囲を更に拡げること也有可能ではないかと思われませんが、このことについては後で触れます。

(以下次号に続く)

1 1 月 2 5 日(火)は、  
特別休館日です。  
ご注意ください!

### ☆個人ケアについて

新しい本（蔵書、リクエスト図書）の録音にとりかかる前に、個人ケアを受けていただくようお願いしております。時間は1人30分～1時間程度です。予約は電話で出来ますので係までご相談下さい。12月の予定は下記の通りです。

12. 2 (火)	14:00～
12. 9 (火)	15:30～
12.10 (水)	13:30～ (補講)
12.16 (火)	14:00～
12.23 (火)	14:00～

### ☆月例録音研究会のご報告

11月5日(水)午後1時30分より3時30分まで家庭録音を中心に機器の選択(テープレコーダー、マイクロホン、マイクスタンド)またその取扱、録音環境(部屋の条件)などの録音技術の基礎知識について研究会を行いました。

録音テープは係で用意してありますので、ご希望の方は係までお申し出下さい。

### ☆12月の月例会のご案内

12月の月例会の日程は次の通り

です。

#### 月例音訳技術研究会

12月9日(火)13:30～15:30

#### 月例録音研究会

12月3日(水)13:00～15:00

「調査について」

### ☆丹後視力障害者福祉センターから

先日、丹後福祉センターのボランティアの皆さんが見学に来館されました。お礼状をいただいておりますので、その一部をご紹介します。

「前略。過日はボランティアの貴館施設見学につきまして大変お世話になりありがとうございました。…(中略)…。職員の方はもちろんボランティアひとりひとりの方たちからも並々ならぬ盲人福祉への情熱が感じられる。その情熱がドアの前に立ったときから伝わってくる。本当に有意義な半日を過ごさせていただいた。…(後略)…。」

いかがでしょうか？

#### 原稿募集

皆さんが、日常の活動で疑問に感じていること、係に対する要望やご意見、掲載された原稿に対するご意見等なんでも結構です。係までお寄せ下さい。